

骨密度検査

骨密度は成長とともに増えていき、20歳から30歳をピークにむかえ、中年から初老にかけてその状態をキープし、その後は徐々に低下していきます。女性は閉経後の10年で骨密度が15%減少し、男性よりも骨粗鬆症にかかりやすいといわれています。自分の骨密度を知ること、できるだけ早く適切な治療や、生活習慣の改善を行うことにより、骨密度の低下をくい止めることが重要です。

当センターの骨密度検査は超音波法とDEXA法で実施しています。

超音波法

かかとの骨（踵骨）に超音波を当てて骨密度を測定する方法です。踵骨の中を超音波が透過する際の速度や量から数値を出します。X線を使用しないので妊娠中の方も検査できます。

検査方法：右足の靴下を脱ぎ素足で検査します。

かかとの踵骨あたりにゼリーをつけて、機器に足をセットして測定します。

数分で終わる簡便な検査です。

判定

判定	大人：19～200歳 (%)	小人：9～18歳 (SD)
1	$80\% \leq T$ $120\% \leq Z$	$2.0 \leq Z$
2	$70\% \leq T < 100\%$ $100\% \leq Z < 120\%$	$0 \leq Z < 2.0$
3	$70\% \leq T < 80\%$ $80\% \leq Z < 100\%$	$-2 \leq Z \leq 0$
4	$70\% \leq T \leq 100\%$ $Z \leq 80\%$	$Z \leq -2$
5	$T < 70\%$	



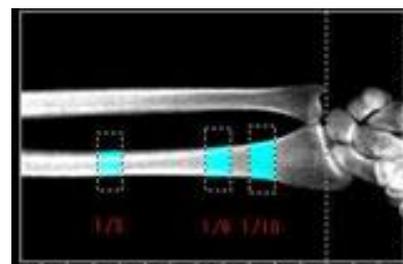
Z: 同年齢比較

T: 20～44歳平均比較

DEXA 法

DEXA 法とは、2 種類の異なるエネルギーの X 線を前腕(橈骨)に照射し、骨と軟部組織の差をみることで骨密度(骨の硬さ)を測定する方法です。この測定結果から骨粗鬆症、つまり骨が脆くなり骨折しやすい状態かを把握できます。

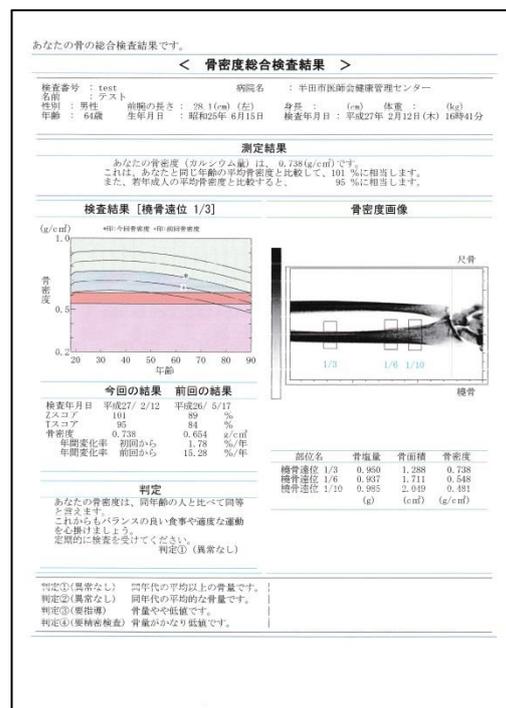
DCS-600EXV は前腕(橈骨)を 15 秒で測定する装置です。橈骨は加齢による変形が少ないため高齢者の測定に適しています。皮質骨が主体の骨幹部と海綿骨を多く含む遠位部を 1 回の走査で測定できます。また、X 線による被曝量は胸部 X 線検査の 3 分の 1 程度です。



検査結果見本

受診結果は、受診された方の平均骨密度と若年成人の平均骨密度を比較した場合の値と、同年齢の平均骨密度を比較した値が結果レポートに記載されます。

なお、骨粗鬆症の診断には、若年成人の平均骨密度を比較した値を使用します。



<< 診断基準 >>

- 正常 : 若年成人の平均骨密度と比較して 80%以上
- 骨減少症 : 若年成人の平均骨密度と比較して 70%以上 80%未満
- 骨粗鬆症 : 若年成人の平均骨密度と比較して 70%未満